

平成26年7月14日

お知らせ

〈資料提供先〉

鳥取県政記者会
鳥取市政記者クラブ

老朽化対策の橋梁現地見学会を実施します！

～ 国道9号宝木橋^{ほうぎばし}の橋梁点検を鳥取大学の学生が体験 ～

高度経済成長期に集中的に整備された多くの橋梁やトンネルなどの道路施設については、高齢化が一斉に進行し、補修や更新が必要となることが想定されます。

鳥取河川国道事務所では、道路施設の老朽化の現状について関心を抱き、老朽化対策の重要性について理解を深めてもらうことを目的として、鳥取大学の学生を対象とした橋梁現地見学会を実施します。

見学会当日には、学生の皆さんが実際に宝木橋の打音検査や近接目視点検を体験します。また、中国地方橋梁保全委員会 橋梁保全アドバイザーでもある鳥取大学の谷口教授より、橋梁の損傷とその原因および対策方法についてコメントをいただく予定です。

【実施内容】

- 実施日時 : 平成26年7月18日(金) 10:00～11:00 (雨天中止)
- 実施概要 : 別紙-1のとおり
- 実施場所 : 鳥取市気高町宝木地先 宝木橋
- 参加人数 : 約20名

【取材について】

宝木橋の現地見学会の実施状況を報道機関へ公開します。
なお、車でお越しの場合は係員の指示に従ってください。

【問い合わせ先】

国土交通省 中国地方整備局 鳥取河川国道事務所

副所長(道路)

かわかみ りゅうぞう
川上 隆三

【担当】 道路管理第二課長

やすかわ まさお
安川 雅雄

TEL(0857)22-8435(代表)

鳥取河川国道事務所ホームページアドレス

<http://www.cgr.mlit.go.jp/tottori/>



中国地方整備局 道路構造物の老朽化対策

<http://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/dovroj/hozen/hozen.htm>

宝木橋の現地見学会の実施概要について

1. 主旨

橋梁の多くは高度成長期(1955～1973年)に建設され、今後、高齢化が一斉に進むことから、多額の修繕・架替え等の維持管理に要する費用が急増することが懸念されています。

鳥取河川国道事務所では、平成26年4月1日現在、橋長2m以上の橋梁287橋を管理しており、各橋梁につき5年に1度のペースで点検・診断を実施することで損傷状況を確認しています。

宝木橋は、この点検・診断で速やかな補修が必要な損傷(C判定)を有する橋と判定し、早期補修を予定しています。

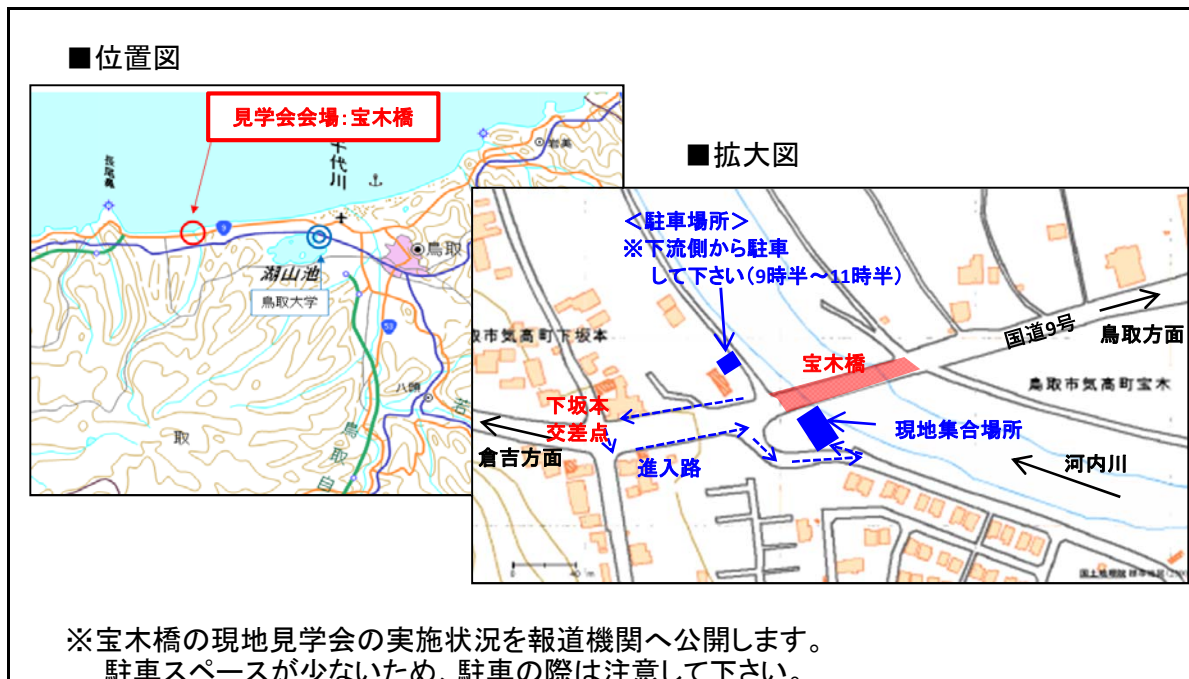
今回、鳥取大学の谷口教授に宝木橋の損傷とその原因などについてご説明いただき、次世代を担う学生に老朽化の現状について関心を抱き、老朽化対策の重要性について理解を深めてもらうことを目的に、現地見学会を行います。また、学生が打音検査や近接目視点検等を実際に体験する予定です。

2. 実施日時

平成26年7月18日(金) 10:00～11:00 (雨天中止)

3. 実施場所

鳥取市気高町宝木地先 宝木橋



4. 参加者

鳥取大学工学研究科社会基盤工学専攻 谷口教授
鳥取大学学生 12名予定
鳥取河川国道事務所 道路管理第二課長 ほか4名
橋梁点検業者 3名

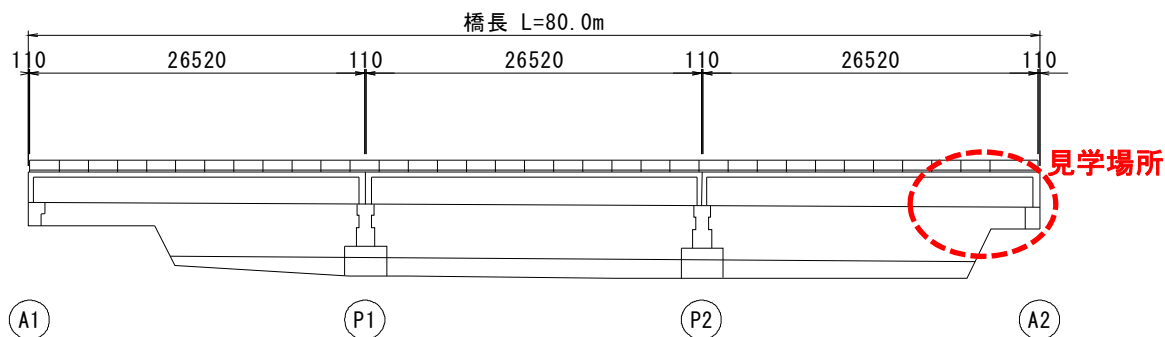
5. 実施内容

10:00頃 橋梁の概要、損傷の状況と原因等について説明
10:10～11:50頃 打音検査、近接目視点検を実施
10:50頃 対策工法について説明、質疑応答

6. 宝木橋(ほうぎばし)の概要

位置 : 国道9号 223k939付近
橋長 : L=80.0m
橋種 : 単純鋼合成鈹桁橋3連
架設年次 : 1961年(建設後53年経過)
見学場所付近の損傷状況 : 上部工の鋼部材の腐食・防食機能劣化等
床版のうき・剥離鉄筋露出

【橋梁一般図】



【全景】



【損傷状況写真】



床版の剥離・鉄筋露出状況

打音検査



コンクリート構造の箇所ではハンマーを使った打音検査を行います。叩いた時の音や感触から、まだ表面に現れていない内部の異常を発見することができます。

近接目視点検



橋の劣化や損傷を見逃さないため、点検員はできるだけ接近して調査を行います。また写真を撮影して点検記録として整理し、以後の補修工事や維持管理に役立てます。